

「取り組み表」は「土俵」です

卒業生の水野君が飛び込んだ相撲の世界に私は興味を持っています。日曜日から始まった大相撲春場所。横綱白鵬が四場所ぶりに出場するということで、楽しみにしていました。しかし、二日目に膝（ひざ）を負傷し、昨日から休場となりました。横綱は勝って当たり前。負けると大きなニュースになります。言動も注目され、横綱が相撲そのものと言ってもよいでしょう。横綱の先には引退しかありません。大関という下の位に落ちることは許されないのです。

二人の横綱白鵬（はくほう）と鶴竜（かくりゅう）が欠場したこと、大関以下の力士たちが優勝できる可能性が大きくなりました。その点でワクワク感があります。本来どっしりと構えて下の力士たちの憧れとなるべき横綱が不在という状態は、本来の大相撲ではありません。優勝を目指す力士たちも、横綱に勝つての優勝の方が感動が大きいです。うからね。

学校と大相撲は似ていると私は思います。一年生は関脇、二年生は大関、そして、三年生は横綱です。関脇と大関は番付を上げるために必死になります。目指すのは横綱です。横綱はというと、これより上はありませんから、下から目指される存在、あこがれの的になって貫録を示すだけです。先輩たちを指す後輩たち、後輩たちに力を見せつける先輩たち……こういう関係ができて上っている学校はどんなレベルアップしていきます。担任時代の私は、いつも野心をもっていました。一年担任の時には「今の君たちなら二年生を抜けるよ。一年生のトップよりも二年生の二位以上になろうよ」と言っていました。二年担任の時には「三年生を抜いて先輩をギャフンと言わせようぜ」とけしかけていました。3年担任の時は、「後輩たちが到底ついてこれない大きな差を見せつけろ」と熱くなっていました。今では懐かしい思い出です。

生徒のみなさんは、全校的な取り組みをするときに全学級の達成状況を取り組み表で示しますよね。あれは「諸刃の剣（もろはのつるぎ）」だ。私は思います。先輩としての圧倒的な力を示すこともできれば、自分たちの力のなさや弱点を後輩にさらけ出すこともあります。相撲でいうと、取り組み表が勝敗の決まる土俵だと思うのです。

その取り組み表で示されているあなたの学級の成績を見た後輩はどんなことを思うのでしょうか。学年を超えこえたあいさつを勧めているように、取り組み表も学年を超えて見てみてはいかがでしょうか。

（三月十七日 記）

